

昭和の南海地震体験談

氏 名:上出 貞和(うえて さだかず)
生年月日:昭和12年10月23日
地震を体験した場所:日高町・自宅寝室
当時の家族状況:父、母、祖父、祖母、弟



1) 地震発生時の状況

当時9歳で小学校3年生だった。自宅寝室で就寝中にユラユラと揺れてきて目が覚めた。横になったまま、布団の中で揺れが収まるのを待った。大きい揺れが長時間続いたが、物が落ちたり、何か壊れたりという事は無かった。

2) 津波襲来時の状況

揺れが収まり、もう一度眠った。しばらくすると、家の外で「津波や、津波や」という声があったので、起き上がり、家族と一緒に高台に避難した。避難した場所には近所の人達もたくさん来ていた。「津波が来るぞ」「早く逃げなアカんで」「あそこの人どうなったんや」等、話をしていた。暗い時間帯で海の様子は見えなかった。

地震＝津波という認識は無かったが、祖父が地震の後に「大きな地震やな。津波が来るんと違うか」と言っていた記憶があるので、大人は知っていたと思う。地震後20～30分で津波が来たと思う。後で聞いた話だが、家が密集している地区では屋根伝いに避難した人がいたそうだ。

3) 家族の行動・被害

家族一緒に避難したので、全員無事だった。幸い土地の高い所に自宅があったので、浸水被害も無かった。夜が明けきり、明るくなった後、避難場所から自宅に戻った。

4) 集落・周囲の被害

子供1人と男性1人が流されて亡くなった。子供は父親に抱きかかえられ避難しているところに潮が来て、離れてしまい行方が分からなくなった。男性は会社に忘れ物を取りに行き潮に引き込まれた。津波が収まり、海が落ち着いてから地域で2人を捜した。男性はすぐに見つかったが、子供はなかなか見つからず、相当捜した後に見つかった。

地震で倒壊した家屋は無いが、津波により中心地の半分程度が浸水した。また沿岸の県道にたくさん置かれていた船の燃料が入ったドラム缶が水に浮き、流され、周辺の家屋を壊すという二次災害もあった。

漁に出かけていた時間帯だったので、港に残っていた船は数隻で、津波の力でロープが切

れたが、幸いにも家屋に向かって流れなかった。

5) 地震・津波後の生活

幸いにして被災しなかったので、生活は変わらなかった。浸水した家屋では、海の泥と、燃料油の汚れを落とすのが大変そうで、相当に家が傷んだらと思う。子供だった為、困ったり不便を感じたりした事で、特に印象に残る記憶は無い。

小学校は通常通り始まり、地震や津波についての授業もあった。



6) 次の災害への備え

自主防災組織を立ち上げているので、避難路の確保や避難所等難しい問題もあるが、前向きに進めている。避難訓練所に参加している。家族で避難場所について話をしている。家族個人の単位で2、3日分の水と懐中電灯や薬を入れた持ち出し袋を作り、常備している。